

無痛分娩についての説明記録(患者様用)

様の手術・処置を行うにあたり、次の通りにご説明いたします。治療検査方法については納得されるまでご説明いたしますので、内容について不明な場合は遠慮なく主治医にご質問ください。また、手術・処置の実施についての意思決定のため他の医師の意見を求めることも出来ます。

① はじめに

陣痛に対する痛みやストレスは多くの場合、呼吸法やリラクセス法で軽くすることができると考えられていますが、分娩に対する不安や恐怖感の強い方、また痛みに対してストレスを強く感じる方では、ストレスや不安感から分娩の進行が遅れたりして、母体や胎児に悪影響を及ぼすことがあります。また、経産婦でも前回の分娩で陣痛の強いストレスを感じ、今回の分娩に関し不安を抱いている方では、分娩時の痛みを取り除くことで、よりよい分娩に取り組むことができます。痛みを適切に取り除き、安全なお産を目指すのが無痛分娩(和痛分娩)という方法です。

② 無痛分娩の方法

当院で行っている無痛分娩は硬膜外麻酔という方法です。背中からチューブを入れて、痛み止めの薬(局所麻酔薬)をそこから流すことにより痛みを取り除きます。無痛分娩の中ではもっとも一般的な方法で、子宮収縮に伴う軽い陣痛は感じますが、子宮口が全開大したら、普通の分娩と同様に『いきみ』を行い出産します。この際、分娩を助けるために吸引分娩を行うことがあります。

麻酔薬はおもに子宮より下の痛みを取り除きますので、意識ははっきりしています。また、足は少し重い感じはしますが、動かすことはできます。麻酔薬注入後約10~15分くらいしてから麻酔は効き始めます。麻酔効果については医師が確認します。陣痛が弱くなった場合は、長引く分娩を回避する目的で陣痛促進剤を使用することがあります。

開始する時期は痛みが強まり耐えられなくなった時点です。初産婦さんは陣痛が5分間隔で、子宮口が3~5cm開大した頃に、経産婦さんは陣痛が開始したら早めに始めることが多いです。

③ 長所

硬膜外麻酔を使った無痛分娩では緊急帝王切開となったときに術後同じ麻酔法を用いることができます。

陣痛による疲労やストレスが少ないため、分娩後の回復が早く、体力を温存できます。

胎児への悪影響を認めないとされています。

他の痛み止めの方法より効果が確実です。

ID:282766

④ 起こりうる問題点

1) 血圧低下、徐脈、吐き気、嘔吐

この麻酔の影響で、血圧が下がったり、脈拍が減少することがあります。血圧や脈拍が、極度に低下した場合には、心臓や脳に十分な血液が送り出せないことにより、吐き気がしたり、気分が悪くなり吐くことがあります。その場合には直ちに輸液を追加したり、薬を投与して対応します。

2) 呼吸抑制

胸や頸など体の上の部分の部分に麻酔が影響すると、呼吸に影響し、息が少し苦しいと感じることがあります。場合により、声が出にくかったり、息ができなくなる場合があります。この場合にはあなたの呼吸を補助し、適切に対処します。

3) 頭痛

硬膜外腔の内側にある硬膜を穿刺することで起こると考えられています。自己血で穴を塞いだり、鎮痛剤で対応します。

4) 局所麻酔の中毒症状

局所麻酔薬の血液中の濃度が上昇して起こる全身的合併症です。また、カテーテルが血管内に迷入することで局所麻酔薬が直接注入されることでも起こります。初期の症状としては、舌のしびれ、興奮、血圧上昇、過呼吸、痙攣があります。この血液中の濃度がさらに上昇すると、意識がなくなり呼吸停止、循環の抑制が起こります。その場合は、直ちに心肺状態の改善に対応します。急性麻酔中毒を予防するには、局所麻酔薬の不用意な大量投与を避けることと、ゆっくり注入することが大切であるといわれています。

5) 神経障害など

麻酔の針による穿刺部の疼痛があります。さらに、神経の分布に沿った痛み、感覚の麻痺などの神経根症状があります。また硬膜外腔に血液が貯留した状態（血腫）や膿が貯留した状態（膿瘍）が起こることがあります。カテーテルを使用している場合でもこの状態が起こることがあります。また、カテーテルが切れて体内に残るなどの合併症や血腫が神経を圧迫することにより、より広い範囲の麻痺となり時に手術が必要となりますが、このような症状の発生頻度はわずかです。そのほかにも、手術後に、足や背中の一部にしびれが残ったり、感覚が鈍ったり、痛みが残ったりすることがありますが、稀です。

6) 硬膜下ブロック

硬膜とクモ膜の間にある硬膜下腔に麻酔薬が注入されて、より広い範囲の脊髄神経が遮断される状態です。

ID:282766

7) その他

以下におおよその合併症の発生頻度を示します。

硬膜穿刺：1～5％、硬膜穿刺後頭痛：0.5～1％

硬膜外カテーテルの血管内迷入：8％

それ以外に、より発生頻度の少ない合併症として、心停止、痙攣、硬膜下ブロック、硬膜外血腫、硬膜外膿瘍、神経根症状などがあります。

以上の問題点はその発生の早期発見により、ある程度回避可能です。そのため当院においては無痛分娩にあたり、点滴による血管確保、胎児心拍監視装置の装着など、母児管理を厳重に行い、異常の早期発見に努めます。

※麻酔効果には若干個人差があります。効果が不十分と感じられる方は遠慮なく申しつけ下さい。

⑤ 以上の説明に対するの患者様からの質問内容とそれに対する回答

説明を行った日	_____		
説明を行った場所	_____		
説明を行った医師	_____	説明を受けた患者様	_____
立ち会ったスタッフ	_____	説明を受けた同席者様	_____
立ち会ったスタッフ	_____	説明を受けた同席者様	_____

ID:282766

この用紙は患者様にお渡しいたします

無痛分娩についての同意書（病院保管用）

氏名 _____ 様

術式 無痛分娩 _____

説明を行った日 _____

説明を行った場所 _____

説明を行った医師 _____

立ち会ったスタッフ _____

立ち会ったスタッフ _____

説明を受けた患者様 _____

説明を受けた同席者様 _____

説明を受けた同席者様 _____

ID:282766

同意書

私は、現在の病状ならびに手術・処置の必要性、内容および危険性について十分な説明を受け、理解しましたので、その実施を承諾致します。

_____年 _____月 _____日

患者様氏名（署名） _____

同席者様氏名（署名） _____（患者様との続柄： _____）

※患者本人の署名がある場合は、代理人の署名は不要です。

医療法人吉徳会あさぎり病院 院長殿

この用紙は病院で保管いたします